

魅力

- 自然
- 歴史・文化
- 温泉・リゾート
- まちめぐり・まち景観
- 体験・イベント

玄界灘の自然・歴史・イベントなどの地域力や市町村合併のメリットを活かした観光振興策で滞在魅力を創出

平成の大合併を期に、地域の宝を掘り起こし、大陸との歴史・文化を結びつけた独自の体験プランや観光コースの開発によって滞在力の強化を図り、毎年約30万人の宿泊客数(入込客数は約270万人)を確保。



唐津城

入込客数

平成14年(2002)	234.8万人
平成15年(2003)	280.0万人
平成16年(2004)	270.0万人
平成17年(2005)	272.6万人(789.3万人)
平成18年(2006)	274.5万人(836.6万人)

宿泊客数

佐賀県観光客動態調査	
33.2万人	
31.5万人	
31.3万人	
30.6万人(52.1万人)	
33.9万人(56.9万人)	

()括弧内数値は、合併後の数値

取組

- PR・誘致活動
- 景観保全・環境整備
- 人材育成
- 体験・イベント開催
- 広域連携の促進



唐津くんち



呼子の朝市

地域力を活用した観光戦略

唐津神社の秋祭りで、16世紀の終わりに始まったと伝えられる『唐津くんち』。勇壮華麗な曳山14台が巡行する姿は圧巻。3年前より、年中行事のうち、くんちの始まりを告げる幕洗い行事や、10月の1ヶ月間行われる雛子の練習など「夜のイベント」や、日本三大朝市のひとつ呼子の朝市など「朝のイベント」を組み合わせた観光コースを積極的に紹介し、宿泊客の増加に寄与している。その効果もあって、平成19年度の唐津くんちの人出は、3日間で61万人と過去最高を記録した。また、玄界灘の海の幸や、佐賀牛など地元の食材を利用したグルメ、市内各所に点在する良質な温泉、宝くじの当選祈願として有名な宝当(ほうとう)神社など、合併により生じた豊富な地域資源を有効に活用し、交通アクセスの良い「福岡都市圏」からの誘客を強化。さらに、宿泊補助制度を充実させて、スポーツ合宿やコンベンションの誘致等も積極的に展開している。



唐津焼体験風景

ATA事業の推進

昨今の体験型観光への旅行ニーズの変化に対応するため、(社)唐津観光協会が着地型旅行事業部(ATA(Area Tourism Agency)事業部)を設立。旅行業法の改正に伴い、第3種旅行業を取得して各種体験プログラムを商品化し、販売することで滞在力の強化に取り組んでいる。特に、窯元の直接指導を受けられる「唐津焼体験メニュー」が好評で、修学旅行獲得にも一役を担っている。

虹の松原の保全

約400年前、防風・防砂のため植林された約100万本の黒松を有する、国の特別名勝「虹の松原」は唐津散策の重要な構成要素であり、虹の松原の保護・育成を行うため、官民一体となった協議会を設立。市民のボランティア活動により松葉かきや清掃活動を継続実施することで、白砂青松の原風景を目指す。一方、松原の自然環境を活かした「ヘルスツーリズム」として、散策コースや癒しの体験プログラムを紹介することで滞在時間延長への取り組みを強化。

「広域観光ニーズへの取り組み」

唐津市は、北部九州3県(福岡、佐賀、長崎)の自治体や民間で構成する「西九州国際観光ルート協議会」に参画しており、広域ルートの魅力を宣伝することで関東・関西方面からの誘客を行っている。また、近年は海外でのインバウンド誘客事業の展開により、東アジア方面、特に台湾からの観光客が増加。平成18年度は約1万7千人の外国人が宿泊している。

唐津市商工観光部観光課

TEL:0955-72-9127 URL:<http://www.city.karatsu.lg.jp>